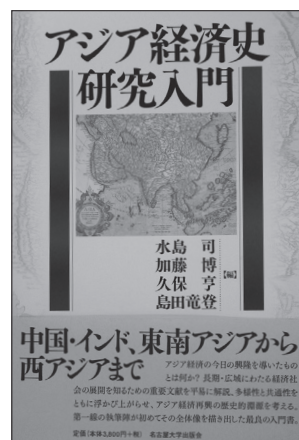


水島司・加藤博・久保亨・島田竜登 編

『アジア経済史：研究入門』

名古屋大学出版会 2015年 390頁 3,800円

秋山 憲治



現在、アジアは世界経済を牽引し、21世紀の世界秩序を形成する主役と考えられる。本書は、東アジア、南アジア、東南アジア、西アジア・中央アジアのアジア全地域にわたって、古代から現在に至るまでの歴史について、その研究の蓄積を振り返りながら、アジア経済の興隆の要因や進展の可能性などを叙述している。

本書の編集方針で、「本書の読者層を、基本的には経済史の研究を志そうとする学生や院生、あるいは、自身が進めてきた研究対象以外の地域での研究動向を知り、自らの問題関心を広めようとする研究者を想定して」いると述べられている。

以下、目次の章及び節について記述し、概略を紹介する。

目次

はしがき

序章 アジア経済史とグローバル・ヒストリー

第Ⅰ部 東アジア

第1章 前近代Ⅰ：春秋～元—14世紀以前

1. 生産—農村の経済関係と諸産業、2. 流通、3. 財政

第2章 前近代Ⅱ：明代～清代前期—14～18世紀

1. 経済規模の拡大—人口・生産・環境、2. 貨幣経済の展開—市場・流通、3. 経済秩序の再編—財政・経済政策

第3章 近現代Ⅰ：19～20世紀初頭

1. 転換期の経済—人口・環境・移住・生産、2. 市場の変容と広域経済・世界経済の展開—市場・流通・経済秩序、3. 帝国経済の変容—貨幣・金融・財政・中央と地方

第4章 近現代Ⅱ：20～21世紀

1. 工業化の急展開—生産・人口・環境、2. 開かれゆく市場—市場・流通・金融、3. 国民国家への道—経済財政政策

第5章 古代～現代：朝鮮

1. 統一新羅・高麗時代、2. 「伝統社会」の成立—朝鮮時代、3. 国際社会への開放と衝撃、4. 植民地支配と独立

第Ⅱ部 南アジア

第6章 前近代Ⅰ：インダス文明～12世紀

1. インダス文明、2. 古代—前1000～後、3. 中世初期—600～1200年

第7章 前近代Ⅱ：13～18世紀

1. デリー・スルタン朝期—13～16世紀前半、2. ムガル朝期—16世紀前半から17世紀、3. ポス

ト・ムガル朝期—18世紀

第8章 近現代Ⅰ：18世紀～第一次世界大戦

1. 植民地体制への移行期—18世紀半ば～19世紀前半、2. 植民地体制の確立期—19世紀前半～1870年代、3. 民族資本の成長期—1870年代～第一次世界大戦前後

第9章 近現代Ⅱ：第一次世界大戦以降

1. 第一次世界大戦後の農村・農業社会と工業発展、2. 独立インドの経済社会の発展と変容—工業・サービス業の発展を中心に、3. 独立後インドの農業と農村社会

第Ⅲ部 東南アジア

第10章 前近代：19世紀半ばまで

1. 自然環境と人口、2. 古代・中世—14世紀まで、3. 「商業の時代」、4. 近代への胎動—18～19世紀前半

第11章 近現代Ⅰ：19世紀半ば～1930年代

1. 世界経済と東南アジア—植民地化・アジア間貿易・アジア太平洋市場圏、2. 島嶼部東南アジアの経済、3. 大陸部東南アジアの経済

第12章 近現代Ⅱ：1930年代～21世紀初頭

1. 戦前・戦後にまたがる経済通史、2. 時期別の現代東南アジア経済史研究、3. 現状分析に関する近年の研究動向

第Ⅳ部 西アジア・中央アジア

第13章 古代Ⅰ：古代オリエント—前4世紀まで

1. 農耕牧畜の開始と都市の成立、2. メソポタミア文明圏の経済と社会、3. エジプトの経済と社会

第14章 古代Ⅱ：イスラム以前の西アジア、

1. ヘレニズム世界の経済社会—前4～前1世紀、2. ローマ帝国の国家と経済—前1～後4世紀、3. ビザンツ帝国の経済構造—4～7世紀

第15章 前近代：イスラム時代—7～19世紀

1. イスラム経済圏の形成と拡大、2. イスラム経済圏の特徴、3. イスラム経済圏の成熟と変革の兆し—15～19世紀初頭

第16章 近現代：西アジア—19～21世紀

1. 近代化と植民地化—19世紀、2. 国民経済への道と体制選択—20世紀、3. グローバルな市場経済の時代—20世紀末～21世紀

第17章 近現代：中央アジア—19～21世紀

1. ロシア帝国と中央アジア—19～20世紀初頭、2. 社会主義時代の経済発展—1917年～91年、3. ソ連崩壊と市場経済化への朝鮮—1992年～現在

文献一覧

付録（研究支援情報、共通項目索引）

本書は、総ページ377頁にわたる大著であるが、17章にわたりアジア各地域の歴史の紹介や重要文献の解説をしてから、263～354頁に和文・中文、欧文の膨大な研究文献がリスト・アップされている。さらに、先行研究をする上での支援情報も詳しく述べられており、歴史的視点を踏まえてアジアの経済社会の研究を志す人たちの重要な研究入門となると考えられる。

（あきやま けんじ 神奈川大学経済学部教授）